

<金沢大学チーム 3月27/28日調査報告>

墓石転倒率調査結果

調査日：2007年3月27・28日

金沢大学能登地震断層調査グループ

石渡 明（教授）●

平松良浩（助教授）

小泉一人（大学院生）●

土橋広宣（同）●

菅谷勝則（同）

田中敬介（同）

山崎 亮（4年生）

吉武直哉（同）

原 香織（同）

荒田孔明（同）（●墓石調査の最も主要な貢献者）

墓石の転倒率は、地震被災地の各地点における地震の揺れの強さを示すのに便利な指標であり、簡単に計測できるので速報性にも優れています。

我々は能登半島の門前-輪島-七尾-羽咋に囲まれる地域の寺院や共同墓地箇所ですべて計測を行いました。その結果を添付図に示します。

50%以上の転倒率を示す墓地は富来から門前に至る西海岸沿いに集中していることがわかりました。特に倒壊率100%の笹波の墓地や80%以上の門前の墓地では、「倒壊」というよりも「破壊」と言うべき惨状でした。一方、これらの地域と同様に負傷者や全壊・半壊家屋が出た輪島（死者1名）や穴水では墓石の転倒率が低く、地震の揺れが比較的小さかったことがわかりました。穴水・羽咋・七尾では転倒率0%の墓地もありました。

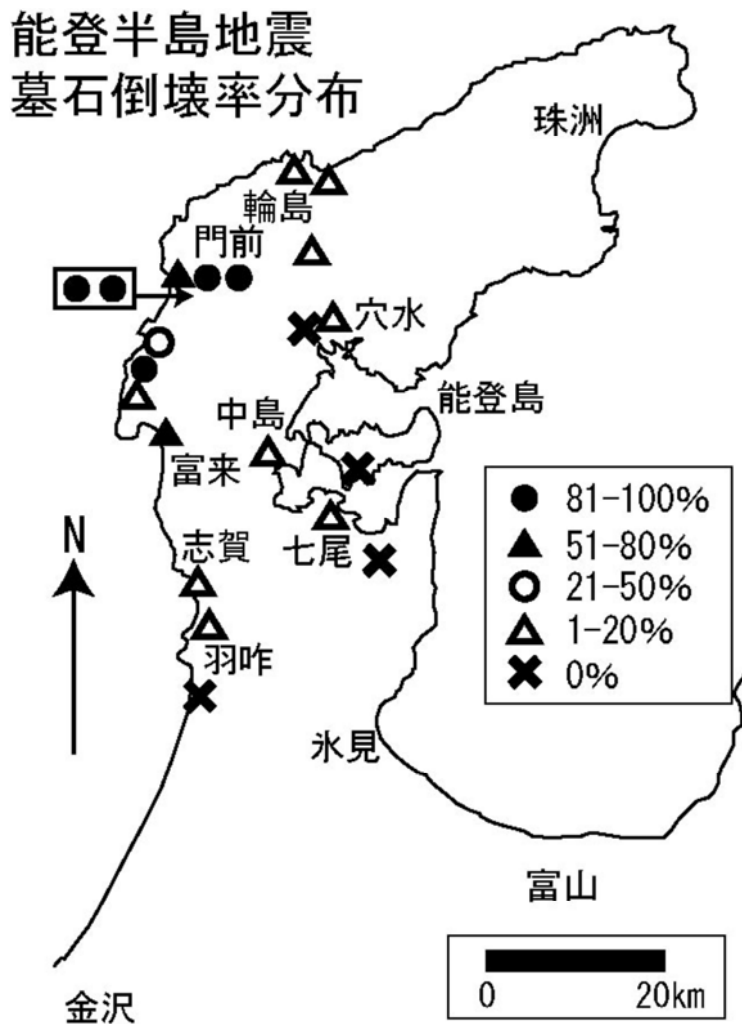
門前-輪島の線より北側ではまだ計測値がありませんが、ヘリコプターから海岸の急斜面の崩壊状況を観察したところ、崩壊は富来-深見（門前西方の海岸）の間と輪島周辺に限られ、両地域の中間の猿山岬付近から輪島北西方にかけては、地形が急峻であるにもかかわらず、ほとんど海岸の崩壊が見られません。つまり、門前-輪島の線より北側では地震の揺れが比較的小さかったと考えられます。つまり、門前で発見された断層の上とその延長上およびその南側で揺れが強く、特に震源に近い西海

岸で揺れが強かったと考えられます。

新潟県中越地震では数 100 箇所では墓石の転倒率調査が行われており、この調査は一般の人でも簡単・正確に計測できるので、更に多数の場所から墓地の墓の全数と倒壊数のデータが寄せられることを期待します。

末筆ではありますが、この地震によって被災された方々と、大切なお墓に損壊を被った方々に、心からお見舞いを申し上げます。

金沢大学理学部地球学科 石渡 明



能登半島地震墓石倒壊率分布